



各自治体のマンホールカードデザインです。
デザインに関する画像準備や説明文章作成の参考に御活用ください。

北海道 札幌市

デザインの由来



設置開始 1998年



札幌市時計台

札幌市は、サケの遡上が見られる自然豊かな都市です。毎年、産卵期を迎えたサケがのぼる水系の1つが豊平川です。サケは、アイヌの人びとが「神の魚」と呼んで大切にしてきましたが、一時水質が悪化し、豊平川から姿を消した時期がありました。そこから回復に向かう決め手となったのが下水道整備です。1970年代に入って水質はみるみる良くなり、カムバックサーモン運動の展開もあって、今では2,000尾のサケが遡上するまでに回復しました。マンホール蓋には豊平川のサケと合わせて時計台もデザインされていますが、そこには「時を告げる鐘の音と共に街の発展が続くように」の想いが込められています。

1604-00-001

札幌市下水道科学館

©GKPマエプロ



宮城県 東松島市

デザインの由来



設置開始 2006年



桜



イーナちゃん イートくん

東松島市のキャラクター「イートくん」と「イーナちゃん」を中央に描き、その周りを市の花「桜」でデコレーションしたマンホール蓋です。イートくんの「イート」は、東松島市の東「イースト」と心「ハート」を融合させた名前。ハート型の耳は、心が集う都市と桜の花びらの形を表現するとともに、東松島市がめざす「自然豊かな将来」への願いも込められています。イーナちゃんはイートくんの妹で、地元の楽しいイベントやおいしい食べ物を愛する妖精。市内にはこのデザインのほか、イートくんといーナちゃんの雨水用のマンホール蓋がありますので、併せて探してみてください。

1704-00-001

東松島市役所

©GKPマエプロ



茨城県 つくば市

デザインの由来



設置開始 1999年



スペースシャトル 地球



筑波山

つくば市が1999年に採用したデザインです。つくば市は「国際都市つくば」を掲げていることから、「未来都市」として相応しいイメージを圖案化したものです。日本百名山にも数えられる筑波山は、いにしえから関東平野にそびえ立つシンボルとして名高く、気象観測や無線通信の重要拠点として活用されています。また、JAXA筑波宇宙センターが1972年に開設され、これまでに数多くの日本人宇宙飛行士を輩出しました。こうしたつくばの歴史を踏まえ、本デザインには、太古から変わらぬ筑波山と未来へ向けて飛び立つ宇宙船、宇宙船が青い地球を回る軌道を「古今調和の融合」として描いています。

1608-00-001

つくば市役所

©GKPマエプロ



新潟県 新潟市

デザインの由来



設置開始 1990年



さつき



SLばんえつ物語号 石油やくら

新潟市に合併する前の旧新潟市のマンホール蓋です。旧新潟市政35周年記念に合わせて作られた「花とみどり」と石油の里」のキャッチフレーズを添え、古くから新潟の顔である「鉄道」をPRするために製作されました。大正期に日本一の産油量を誇った新潟は、その豊富な地下資源を背景に地域経済の要となり、日本海側の各地をつなぐ「鉄道のまち」として栄えた歴史があります。当時の主役だったSLはやがて電車に座を譲りましたが、現役を退いてから30年後の1999年に「SLばんえつ物語号」として復活。休日とその優美な姿を広大な阿賀野川の川面に映し、会津若松まで多くの鉄道ファンを乗せて走ります。

1712-00-001

新潟鉄道資料館

©GKPマエプロ





各自治体のマンホールカードデザインです。
デザインに関する画像準備や説明文章作成の参考に御活用ください。

静岡県 静岡市

デザインの由来



設置開始 1987年



田子の浦港から望む富士山

現行デザインとなったのは、1987年。
このマンホール蓋に描かれた世界に名高い富士山は、富士市の誇りです。富士山を北に仰ぎ、南には駿河湾の白波をイメージしたデザインとなっています。富士山に使われている赤色から、葛飾北斎の「富嶽三十六景」を思い起こす人は少なくないでしょう。朝焼けに染まる赤富士を描いた「凱風快晴」はあまりにも有名です。

富士山のデザインをあしらったマンホール蓋は全国に散見されますが、富士山の向きで下水の流れが分かる（頂上を流れの方向に合わせて蓋を設置）のは富士市のマンホール蓋以外では少ないと思われる。

1604-00-001

富士市水道庁舎

©GKPマエプロ



奈良県 大和郡山市

デザインの由来



設置開始 1989年



金魚



郡山城址

大和郡山市の代表的な地場産業である「金魚養殖」の金魚が、金魚鉢の中を元気よく泳ぐ姿を図案化して製作したマンホール蓋です。美しい水環境のシンボルとして、1989年から使用しています。大和郡山市の金魚養殖は享保9年（1724年）、柳澤吉里侯が甲斐から大和郡山へ入部したことに端を発すると伝えられ、幕末には藩士の副業として盛んに行われるようになりました。それ以来歴史を積み重ね、今では毎年4月上旬に金魚品評会が桜花満開の郡山城址内の柳澤神社で行われるほか、8月下旬には金魚スクエアで「全国金魚すくい選手権大会」が開催されるなど、大和郡山の風物詩になっています。

1608-00-001

大和郡山市 上下水道部庁舎

©GKPマエプロ

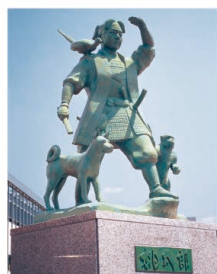


岡山県 岡山市

デザインの由来



設置開始 1986年



桃太郎伝説

現行デザインを使い始めたのは、1986年からです。
岡山市は、桃太郎伝説の由来となった吉備津彦命（きびつひこのみこと）の温羅（うら）退治の物語が残されているまちです。岡山市民のシンボリックな存在で、市民に愛されている桃太郎を岡山市の職員がマンガチックにデザインしました。岡山城跡、後楽園、各種美術館・博物館、ホールが多数集積する、「岡山カルチャーゾーン」から設置を始めました。当初は、「桃太郎を足で踏みつけるのか」との声もあったようですが、今では「桃太郎のまちおかやま」ならではおもてなし、「もてなし」に一役買っています。

1604-00-001

ももたろう観光センター

©GKPマエプロ



佐賀県 神埼市

デザインの由来



設置開始 1996年



水車の里



九年庵

神埼市にはその昔、60基の水車群がありました。豊かに流れる城原川の水力で稼働し、神埼そうめんの製粉や精米などに使われました。城原川は佐賀平野の貴重な農業用水および生活用水の源であり、また、市民の遊び・学び・憩いの場にもなっています。本デザインは、当時の水車群を復元した「水車の里」と「城原川」、その手前に「九年庵」を配置し、背景に日本三百名山の1つ「育振山」を描いたものです。九年庵は、佐賀の大実業家、伊丹弥太郎が明治時代に建てた別荘と庭園で、その美しさは国の名勝指定を受けたほど。同庭園が9年の歳月をかけて完成されたことから九年庵と呼ばれています。

1704-00-001

神崎市役所

©GKPマエプロ

